

20号刊行に寄せて

日本文学会会長 灰谷謙二

『尾道市立大学日本文学論叢』は、このたび記念すべき第20号を刊行するはこびとなりました。学会会員の皆様とともに、この喜びを分かち合いたく存じます。

刊行20号を記念しまして、退任された先生方、卒業された会員、学内の学生から広く投稿を募りました。お声掛けに、快く玉稿お寄せいただきました先生方にはあらためて御礼申し上げます。

平成一七（二〇〇五）年一二月に尾道大学日本文学会機関紙として、『尾道大学日本文学論叢』創刊号が森山茂会長のもとで創刊され、第8号（二〇一二）で雑誌名を『尾道市立大学日本文学論叢』とし、以後かけることなく安定した雑誌刊行を実現してきました。論文や創作を寄せていただいた方、編集に携わって来られた方、皆様にあらためて御礼申し上げます。

創刊号の森山先生の巻頭言には「教員も学生も同じ土俵で研鑽を図っていこう」という志と、「若い人の創造力、感性を重視して、新しい文学研究や語学研究が開かれること」を期待することはが述べられています。前身である尾道短期大学国文学会と機関誌『国文学報』全45号以来、その志はかわることなくここまで引き継がれてきています。人文研究をとりまく環境が厳しくなる中、学会活動と雑誌刊行を継続していくことも、相当な困難を伴うものになっていきます。会員の皆様の支えがなければ成り立ちません。どうぞ学会活動のために皆様のましますのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。